

第1章 「新入生調査」の結果

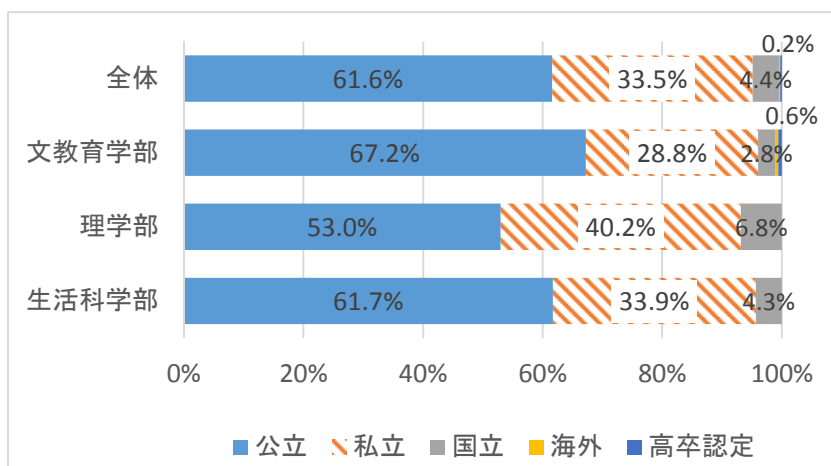
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

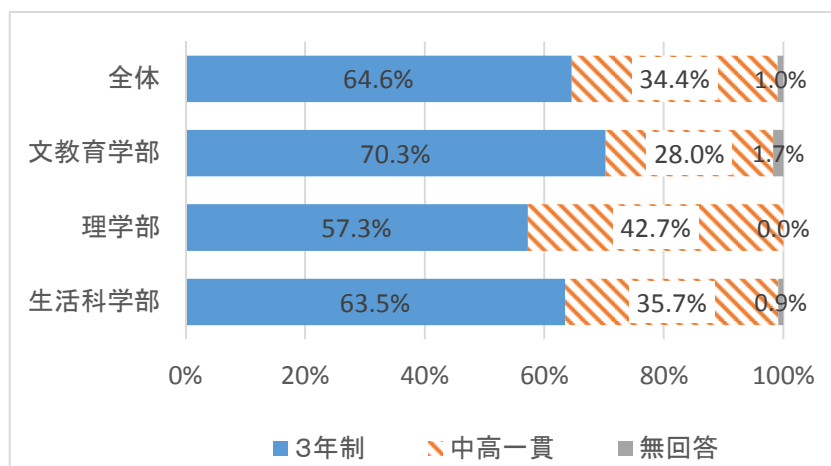
全体では、「公立」61.6%、「私立」33.5%、「国立」4.4%、「高卒認定」0.2%であった。学部別では、文教育学部は「公立」の割合が高く、67.2%である。この傾向は、平成26年度新入生でも同様であった（お茶の水女子大学 2014, p5）。今年度は、理学部において他の学部よりも「国立」の割合が6.8%と高い。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

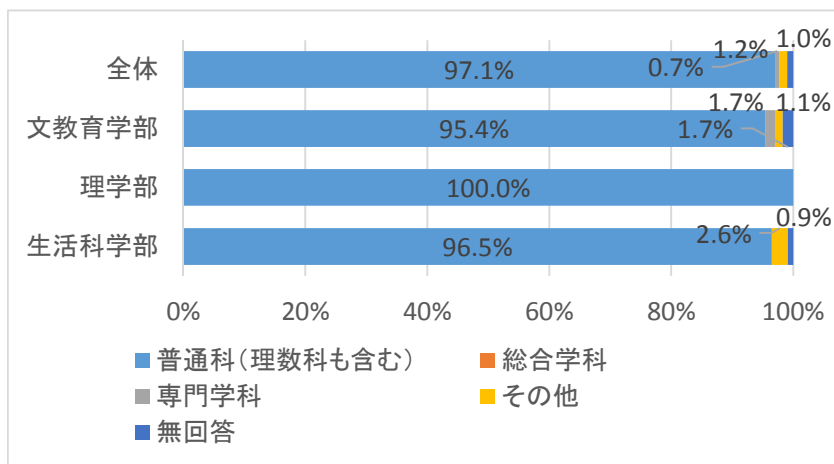
図表1-2に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が64.6%、「中高一貫」34.4%と昨年とほぼ同様であった。学部別では、文教育学部が平成25年度より引き続き「3年制」の割合が高く、今年度も70.3%と高い傾向が続いている。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科(理数科も含む)」「総合学科」「専門学科(商業・工業、家庭、農業科など)」「その他」別に示す。全体の 97.1%が「普通科」であり、学部別でも大きな差異はない。平成 26 年度と同様に(お茶の水女子大学 2014 ,p6)、今年度の新入生にも「総合学科」の出身者は見られなかった。



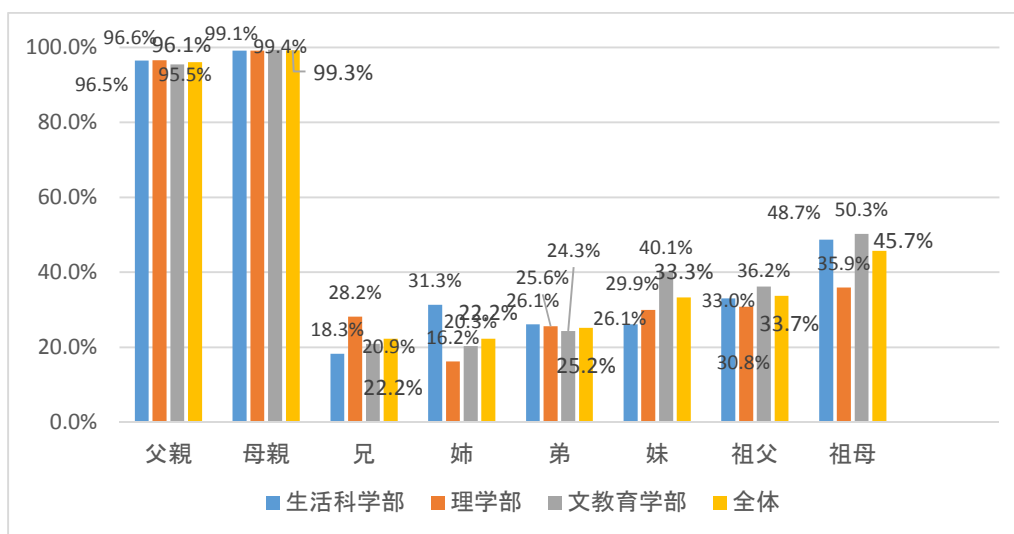
図表 1-3 出身高校の学科

(2) 家族構成

次に、新入生の家族構成について、①家族構成、②高等教育機関在籍(予定含む)のきょうだい数、④私立学校在籍(予定含む)のきょうだい数について示す。

① 家族の構成

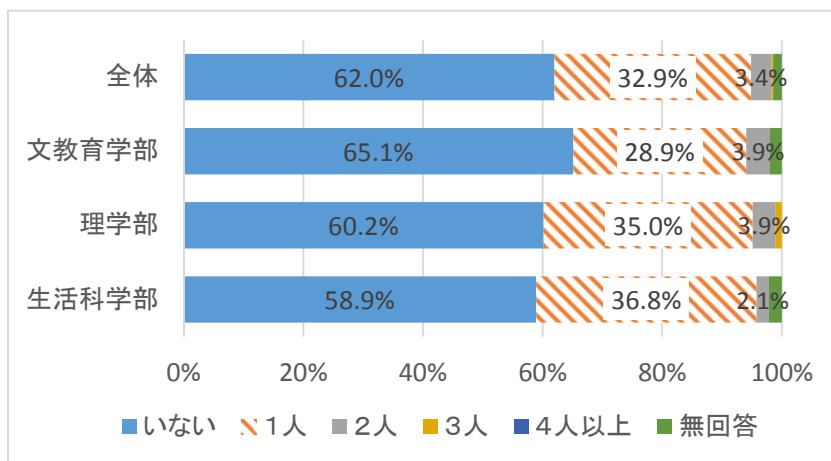
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。今年度の新入生の家族構成は、全体でも学部別でも、平成 26 年度新入生と大きな差異は見られなかった(お茶の水女子大学 2014,p7)。また「一人っ子」は全体の 16.5%であった。平成 26 年度 17.2%(お茶の水女子大学 2014,p7)と平成 25 年度 15.2%(お茶の水女子大学 2013,p6)と並んで、高い傾向は変わらない。



図表 2-1 家族構成

② 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-2 は、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）を尋ねた結果である。全体の 62.0%が「いない」、「1人」は 32.9%、「2人」が 3.4%である。文教育学部に「いない」人がやや多いが、学部による大きな差異は見られない。平成 26 年度新入生でも、ほぼ同様の傾向が示されている（お茶の水女子大学 2014,p9）。

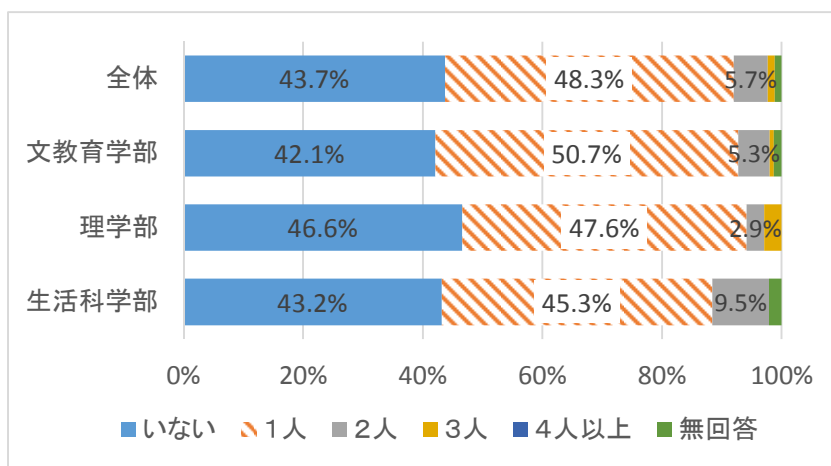


図表 2-2 高等教育機関在籍（予定含む）のきょうだい数

③ 私立学校在籍（予定含む）のきょうだい数

図表 2-3 は、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定のきょうだい数（自分を除く）について尋ねた結果である。

全体の 43.7%が「いない」、48.3%が「1人」、5.7%が「2人」であり、学部により大きな差異は見られなかった。また平成 26 年度および平成 25 年度新入生とほぼ同様の傾向がみられた（お茶の水女子大学 2013,p8）。



図表 2-3 私立学校（予定含む）在籍のきょうだい数

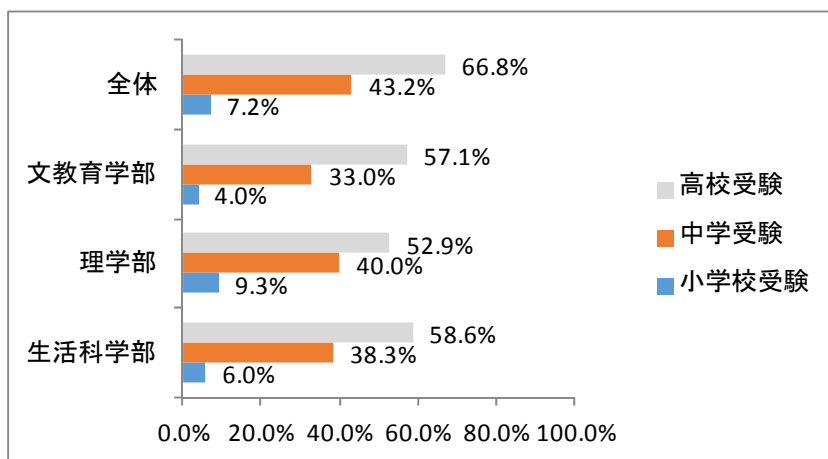
(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

図表 3-1 は、小学校・中学校・高校のそれぞれに入学するための受験の経験について、複数回答可として尋ねた結果である。全体の 7.2%が小学校受験を、43.2%が中学受験を経験している。この傾向は、平成 26 年度新入生でも同様に見られる（お茶の水女子大学 2014,p11）。

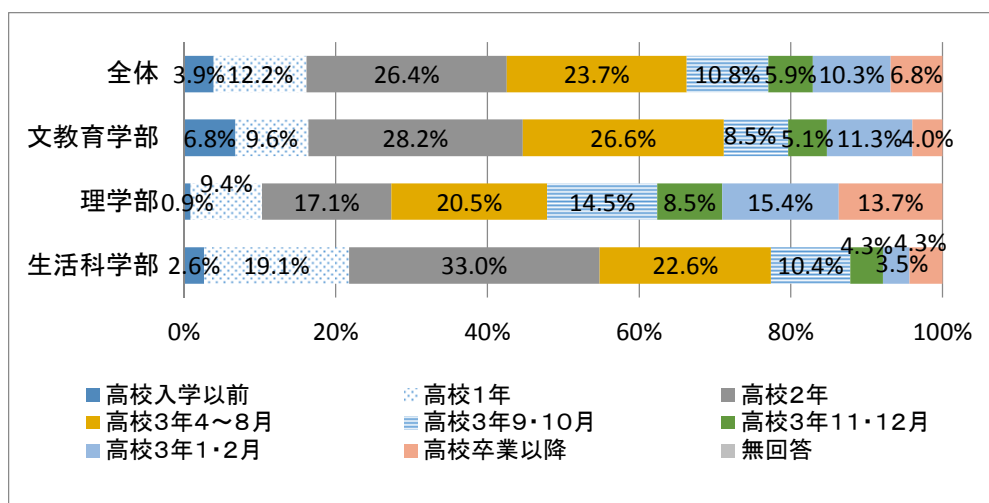
「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査」(Benesse 教育研究開発センター 2013,p150)における、大学生の中学受験経験率は 27.8%であり、それと比較して本学の新入生の中学受験経験率は高い方に偏っている。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

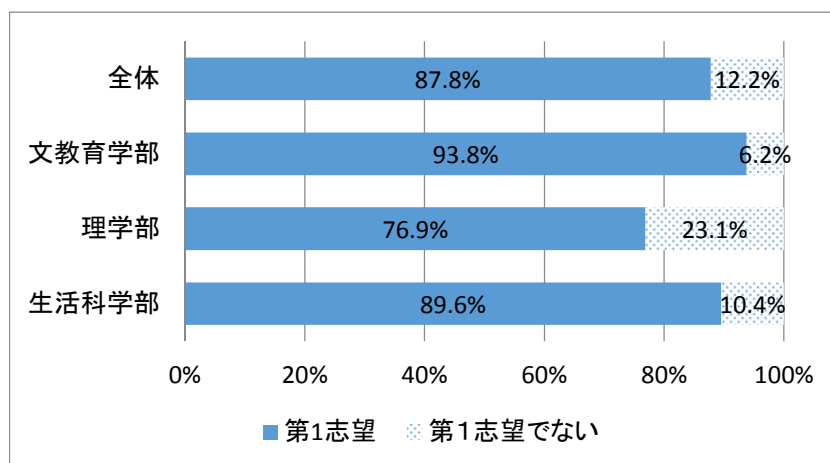
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では、「高校 2 年」が 26.4%と最も高く、「高校 3 年 4～8 月」23.7%がそれに続いている。平成 27 年度は例年と同様の傾向となっている。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 87.8% の新入生が本学を第一志望としており、昨年度 86.4% より 1.4 ポイント程度増加した（お茶の水女子大学 2014,p13）。学部別にみると、理学部での第一志望の割合が他の学部比べて 10 ポイント以上低い結果となっている。



図表 3-3 本学の第一志望の割合

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

「浪人」は全体で 14.1% であり、「この中にはない」が全体の 74.2% である。この傾向は、平成 26 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p11）。

学部別では、浪人の割合が異なり、文教育学部が 7.6%、生活科学部が 10.5% であるが、理学部は 20.0% と多いことが今年度の特徴である。

図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

—	他の高等教育機関入学	フルタイムで働いた	浪人	海外留学	この中にはない	無回答
全体	0.7%	0.2%	14.1%	0.0%	74.2%	9.3%
文教育学部	0.4%	0.0%	7.6%	0.0%	62.5%	8.9%
理学部	0.7%	0.0%	20.0%	0.0%	54.3%	9.3%
生活科学部	0.8%	0.8%	10.5%	0.0%	71.4%	4.5%

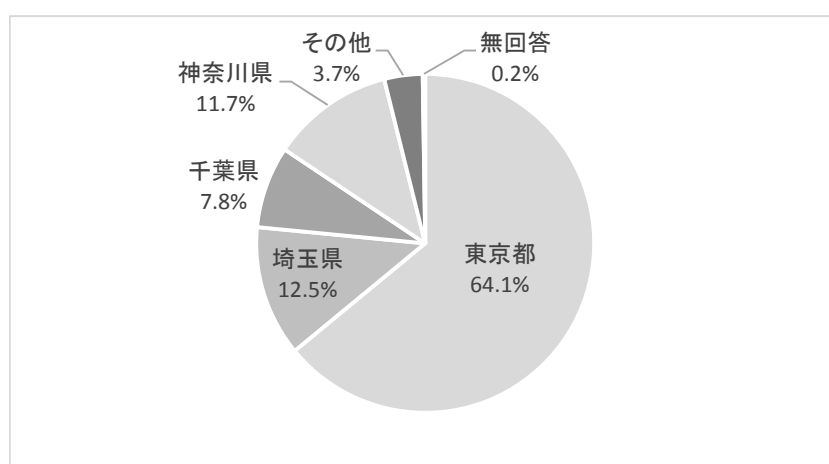
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定について多面的に行った調査結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1か月の家賃の予算、④1か月あたり定額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧奨学金・学費免除制度の認知、⑨本学の学生寮に対する認知、⑩大学生活での不安・心配事、⑪本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

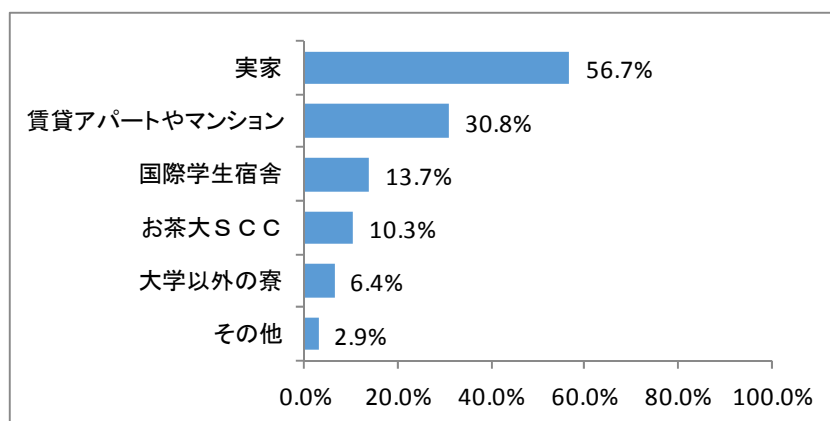
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 64.1%と最も高く、埼玉県、神奈川県、千葉県と続いている。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

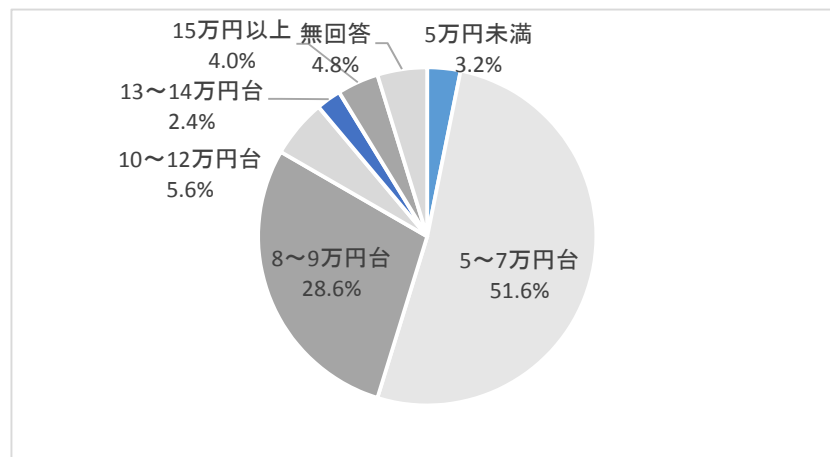
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「実家」が約 56.7%を占め、次いで、「賃貸アパートやマンション」30.8%、「国際学生宿舎」13.7%、「お茶大 SCC」10.3%といった学生寮が続いている。この結果は平成 26 年度新入生とほぼ同様の傾向である（お茶の水女子大学 2014,p16）。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7万円」が51.6%と最も多く、次いで「8～9万円」28.6%である。両者を合わせると約8割の学生が1か月の家賃として5～9万円を予定していることがわかる。平成26年度新入生でも、ほぼ同様であった（お茶の水女子大学 2014,p17）。

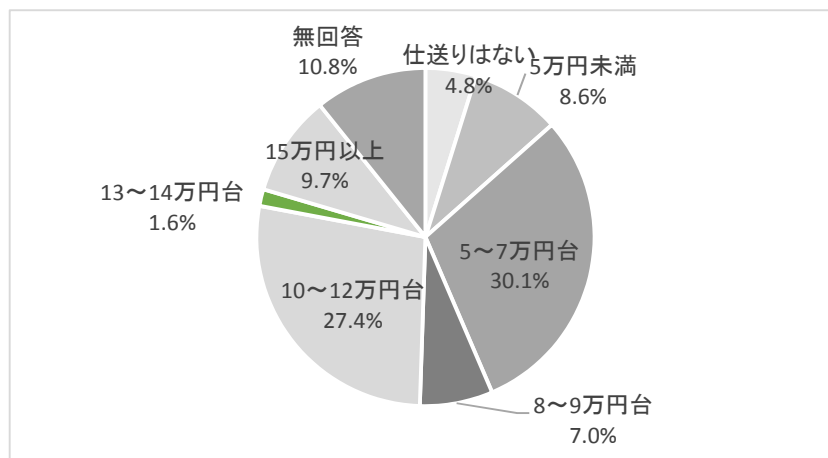


図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

④ 1か月あたりの仕送り

図表 4-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。「5～7万円」が30.1%と最も多く、次いで「10～12万円」27.4%という結果である。一方で「仕送りはない」4.8%を含め、仕送り予定が10万円未満の学生は50.5%であり、平成26年度の調査とほぼ同様の結果である（お茶の水女子大学 2014,p18）。

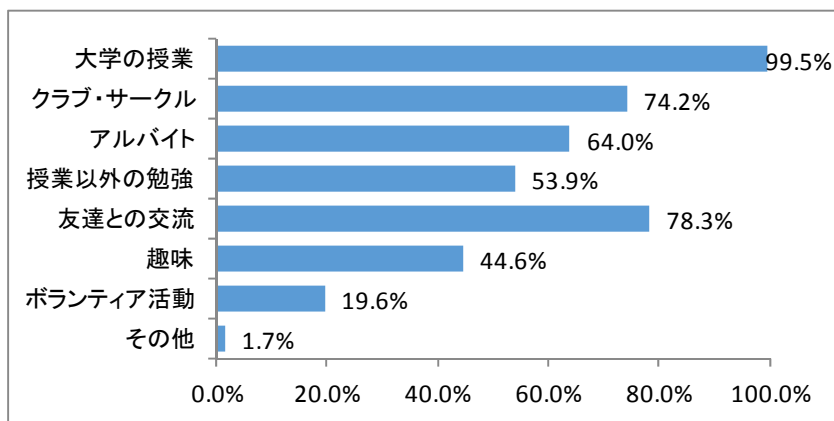
なお「第50回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生活協同組合連合会 2015）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が5～10万円の学生は36.2%と最も多く、仕送り10万円以上29.3%を超えている。一方、仕送り0の割合は8.8%、5万円未満の人は23.8%である。



図表 4-4 1か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

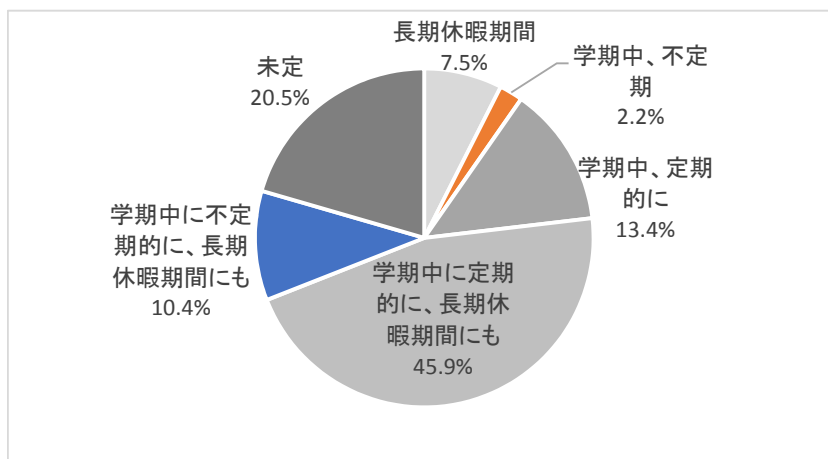
図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が99.5%と最も高い。続いて、「友達との交流」78.3%、「クラブ・サークル活動」が74.2%と全体の7割を超えている。これらの傾向は、平成26年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p15-16）。「アルバイト活動」は全体の64.0%であるが、その理由についても今後は目を向けていく必要があるだろう。



図表 4-5 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

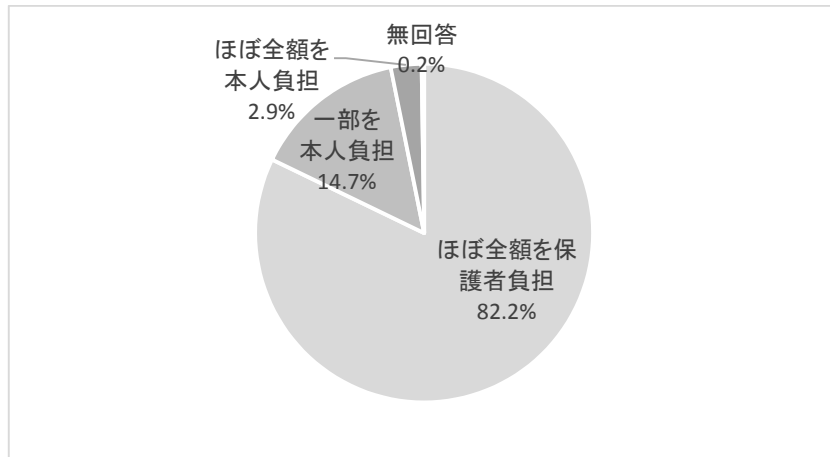
図表 4-6 は、入学後のアルバイト活動の予定について、その予定のある者に対して尋ねた結果である。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」45.9%である。「未定」が全体の20.5%を占めるが、学期中に定期的なアルバイト活動を予定している学生は約6割にも及ぶ。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 82.2%である。その一方で、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は極めて少なく、2.9%であった。これらの傾向は、平成 26 年度新入生でもほぼ同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p21）。



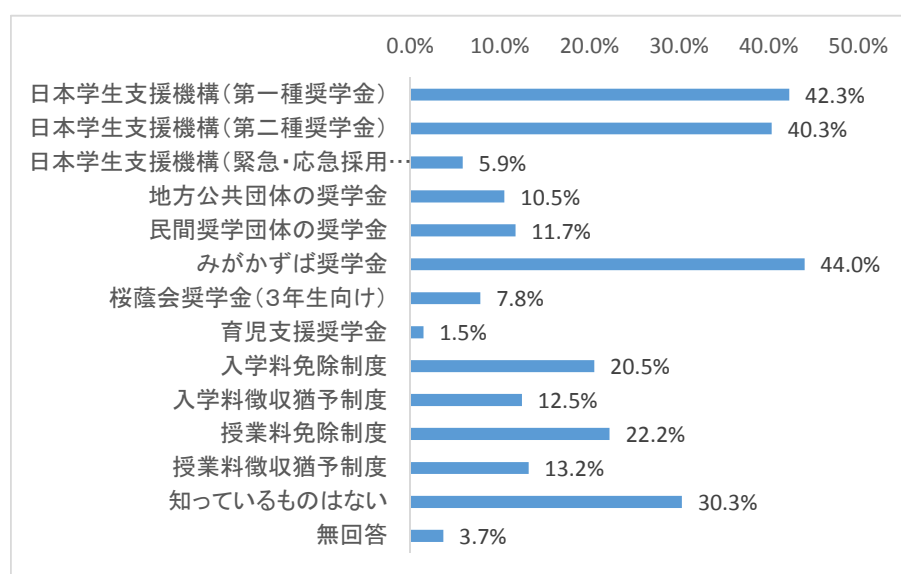
図表 4-7 授業料の負担予定

⑧ 奨学金・学費免除制度の認知

図表 4-8 は、奨学金・学費免除制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。奨学金制度については、日本学生支援機構による奨学金は、第一種・第二種ともに高く、全体の約 4 割の認知率であった。「知っているものはない」は全体の 30.3%であり、平成 26 年度新入生の 26.4%、平成 25 年度新入生の 27.8%に比較して多い割合である。（お茶の水女子大学 2014,p21:2013,p18）。

本学独自の奨学金として、平成 23 年度よりスタートした予約型奨学金制度「みがかずば奨学金」は、44.0%と日本学生支援機構の奨学金より高い認知率であり、この傾向は昨年度と同様である。

入学金や授業料の学費免除制度は約 2 割の認知率、授業料徴収猶予制度は昨年度の 16%より低く 13.2%の認知率であった。

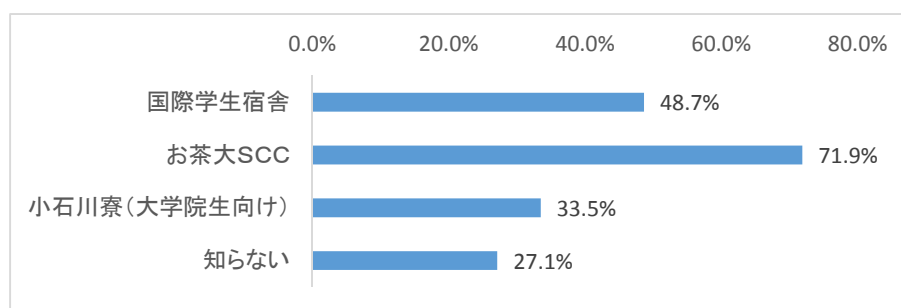


図表 4-8 奨学金・学費免除制度の認知

⑨ 本学の学生寮に対する認知

図表 4-9 は、本学学生寮に対する認知について、複数回答可として尋ねた結果である。本学には、国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（1・2 年生対象）、小石川寮（院生対象）がある。

「お茶大 SCC」が 71.9%、「国際学生宿舎」が 48.7%、「知らない」は 27.1%である。国際学生宿舎について、平成 26 年新入生の認知率 54.5%に比べると平成 27 年度新入生の認知率は 6%程度低い。しかし全体傾向は平成 26 年度新入生と同様である（お茶の水女子大学 2014,p24）。



図表 4-9 本学の学生寮に対する認知

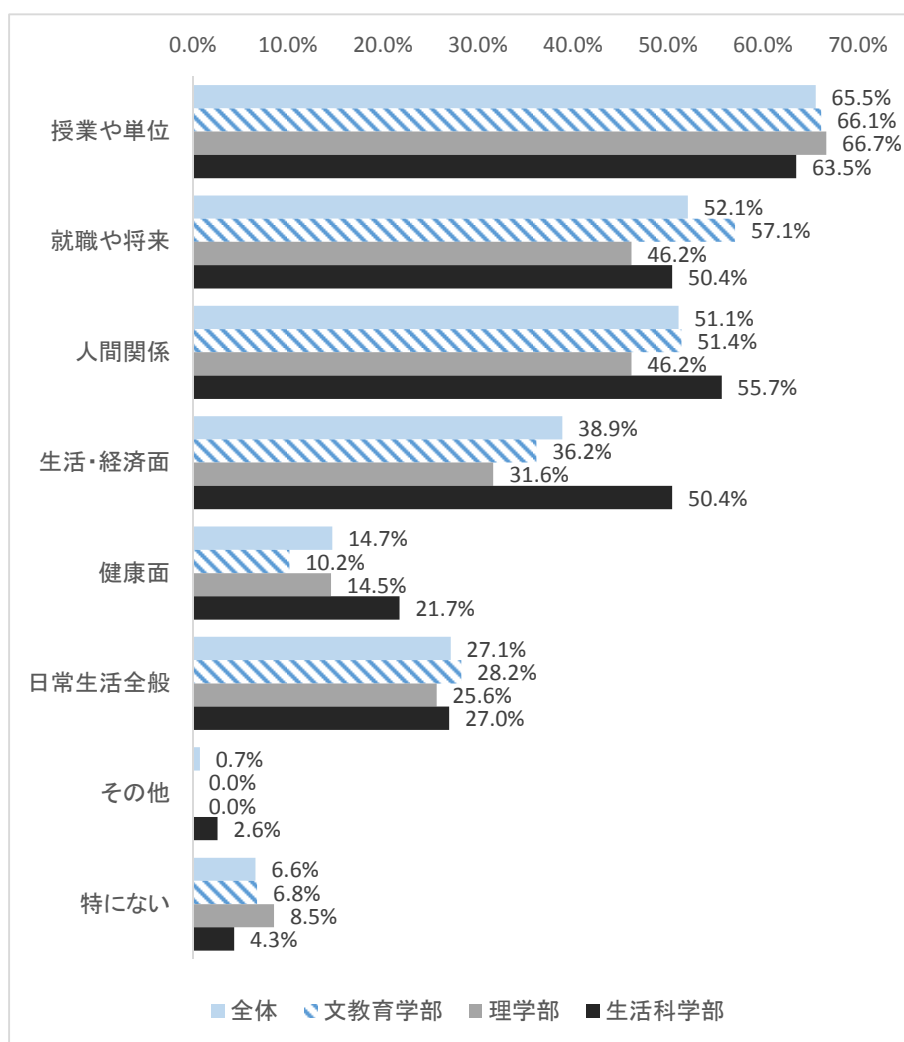
⑩ 大学生活での不安・心配事

図表 4-10 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

「特にない」は全体の 6.6%であり、学部別では理学部では 8.5%と高い。この傾向は、平成 26 年度新入生とほぼ同様である（お茶の水女子大学 2014,p24）。

最も多い項目は「授業や単位」が全体の 65.5%であり、「就職や将来」52.1%、「人間関係」51.1%がそれに続いている。平成 27 年度新入生は、平成 24 年度新入生及び平成 25 年度新入生（お茶の水女子大学 2013,p19-20）と同様の結果である。しかし平成 26 年度新入生とは異なり、平成 26 年度新入生は「授業や単位」に「人間関係」が続いているという結果であった（お茶の水女子大学 2014,p24）。

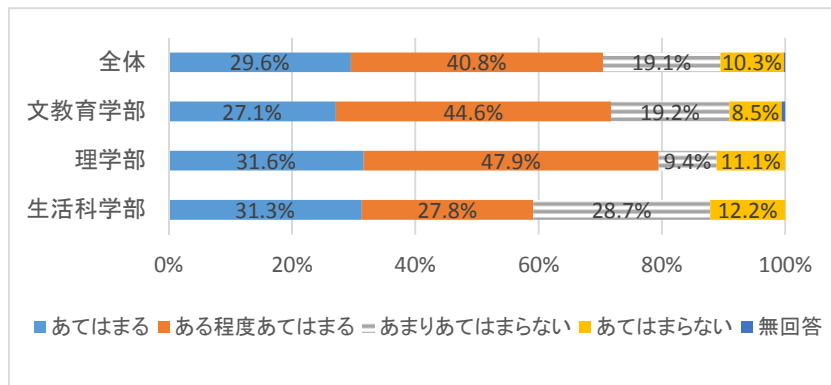
学部別では、文教育学部は「就職や将来」について 57.1%と他学部より高く、生活科学部は、「人間関係」55.1%、「生活・経済面」50.4%について他学部より高いという結果であった。



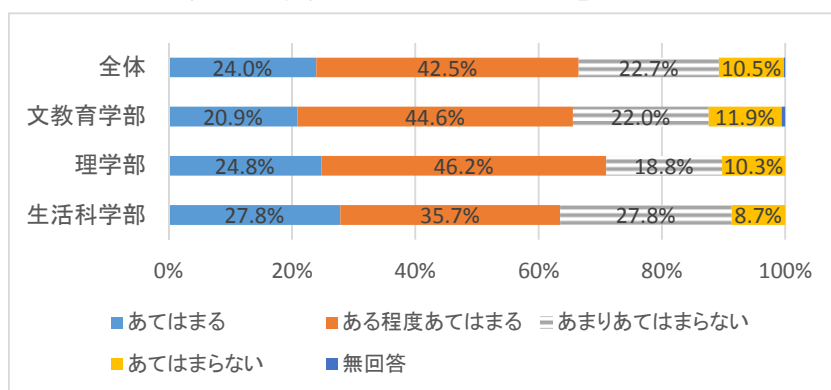
図表 4-10 大学生活が始まって心配なこと

加えて、大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ち 8 項目について 4 件法で回答を得た。そのうち、「あてはまる」「ある程度あてはまる」として回答した割合が 65%を超えた 4 項目を図表 4-11 から図表 4-14 に示す。

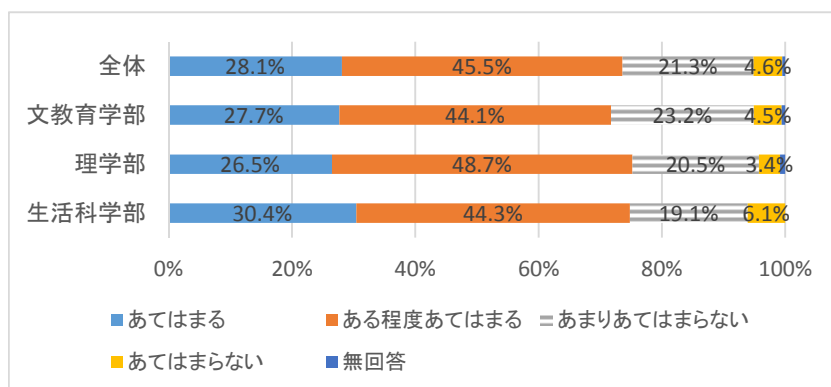
全体では、「授業についていけるか」を不安に思う割合が74.7%と最も高く、「充実したキャンパスライフを送れるか」70.4%、「卒業後ちゃんと就職できるか」66.9%がそれに続く結果となっている。この傾向は平成26年度新入生とほぼ同様である。



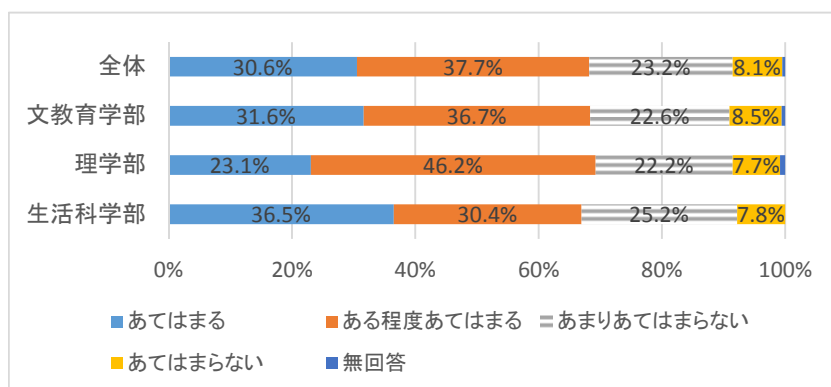
図表 4-11 充実したキャンパスライフを送れるか



図表 4-12 大学になじめるか



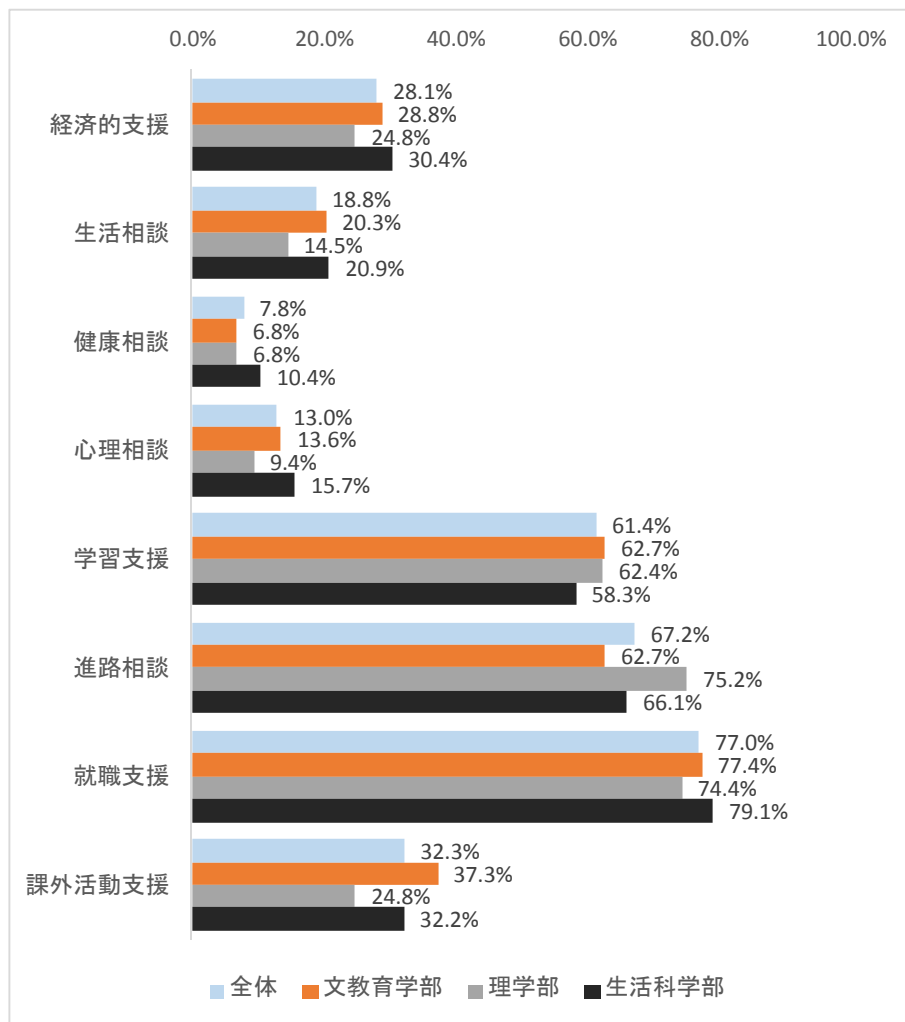
図表 4-13 授業についていけるか



図表 4-14 卒業後ちゃんと就職できるか

⑪ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-15 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では、「就職支援」が 77.0%と最も高く、次いで「進路相談」67.2%となっている。



図表 4-15 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

本節では、新入生の将来の進路について、①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

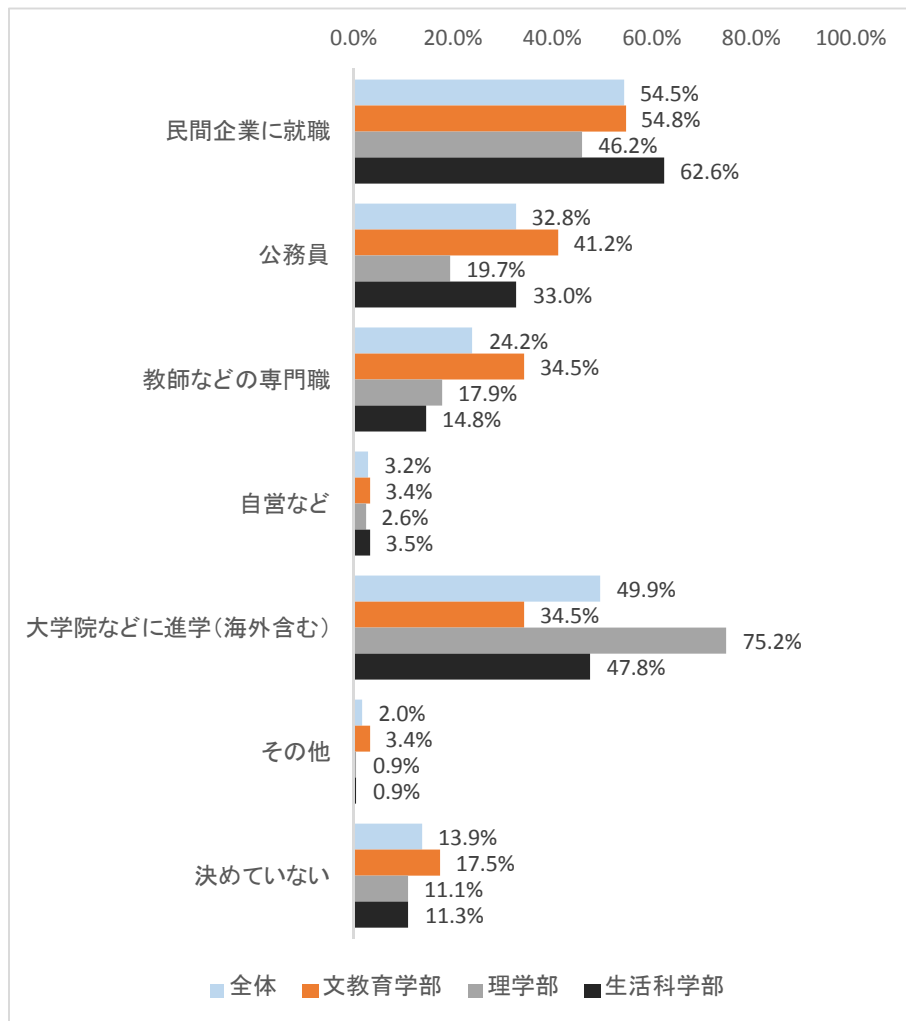
① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。

全体で見ると、「民間企業に就職する」が最も高く 54.5%、「大学院などに進学する（海外含む）」がそれに続いて 49.9%であった。ただし「大学院などに進学する（海外含む）」は学部による差異も大きく、理学部では 75.2%であるが、文教育学部では 34.5%程度であった。これらの傾向は、

平成 26 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p18）。

「公務員になる」が全体の 32.0%でこれらの進路希望に続くが、学部により差異も大きく、文教育学部では 41.2%を占める一方で、理学部では 19.7%にとどまっている。



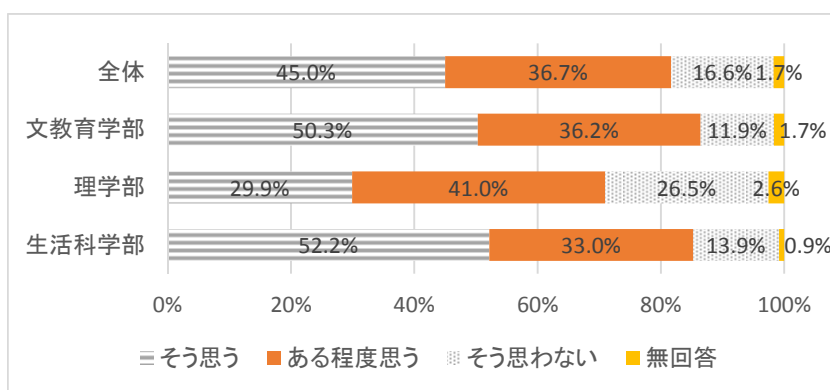
図表 5-1 大学卒業後の進路希望

② 大学卒業後のキャリアについての考え

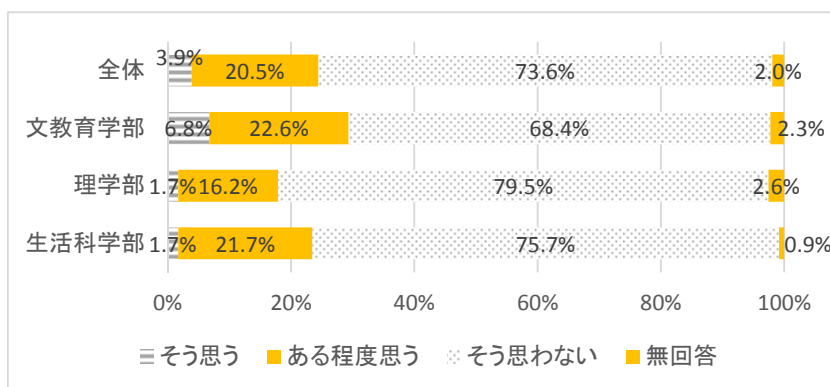
全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ねた結果のうち、7項目の結果を図表5-2から図表5-8に示す。

まず図表5-2から図表5-4は、「卒業後の進路」について尋ねた結果である。「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」について、全体で「そう思う」「ある程度思う」と回答した人（該当率）は81.7%である一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない」の該当率は24.4%である。この結果から平成27年度の新入生は、平成26年度、平成25年度新入生と同様、大学卒業後すぐに正規雇用を志向していることがうかがえる（お茶の水女子大学2014,p20）。

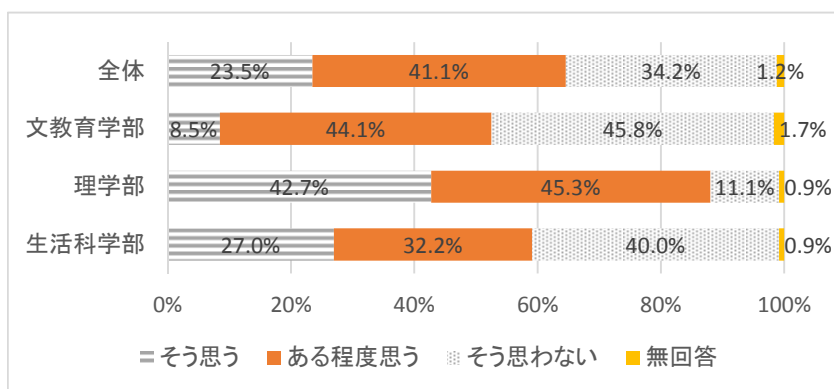
「すぐに大学院などに進学する」の全体での該当率は64.6%である。特に理学部が高く、理学部の該当率は88.0%であり、平成27年度新入生と同様の傾向である（お茶の水女子大学2014,p21）。



図表 5-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



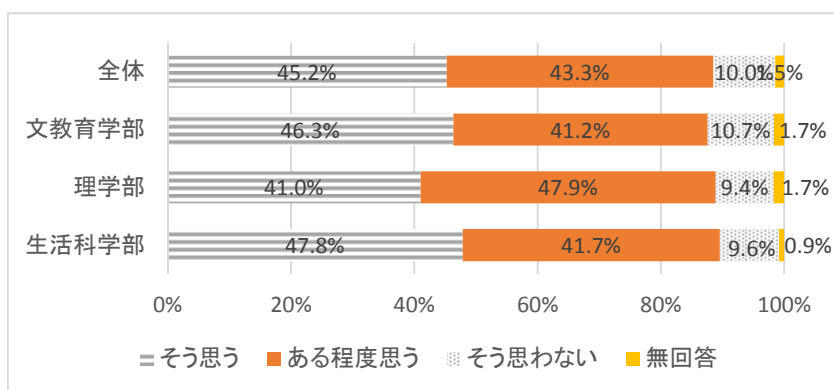
図表 5-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない



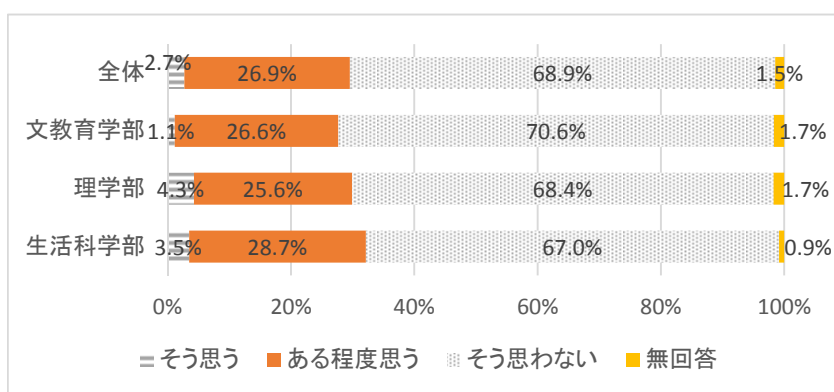
図表 5-4 すぐに大学院などに進学する

次に図表 5-5 と図表 5-6 は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた結果である。

いずれの項目も学部による大きな差異はみられず、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」に該当する人は全体のおよ 9 割に及んでいる。「結婚・出産したら仕事をやめる」の該当率は 29.6% であり、「そう思わない」に回答した人は全体では 68.9% である。これらの傾向は、平成 26 年度新入生でも同様に示されている（お茶の水女子大学 2014,p23-24）。



図表 5-5 最初の就職先にできるだけ長く勤める



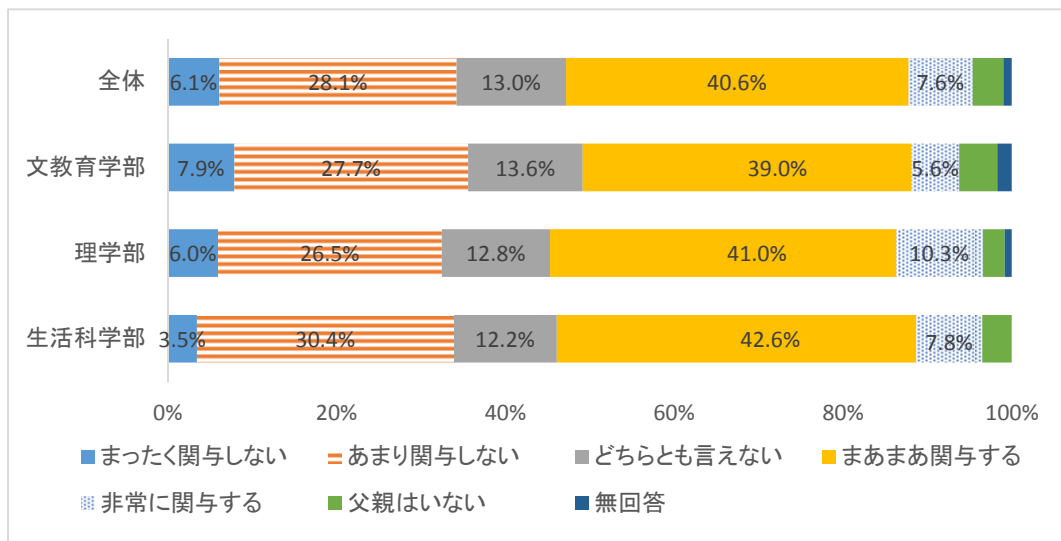
図表 5-6 結婚・出産したら仕事をやめる

③ 就職や将来に関する親の関与

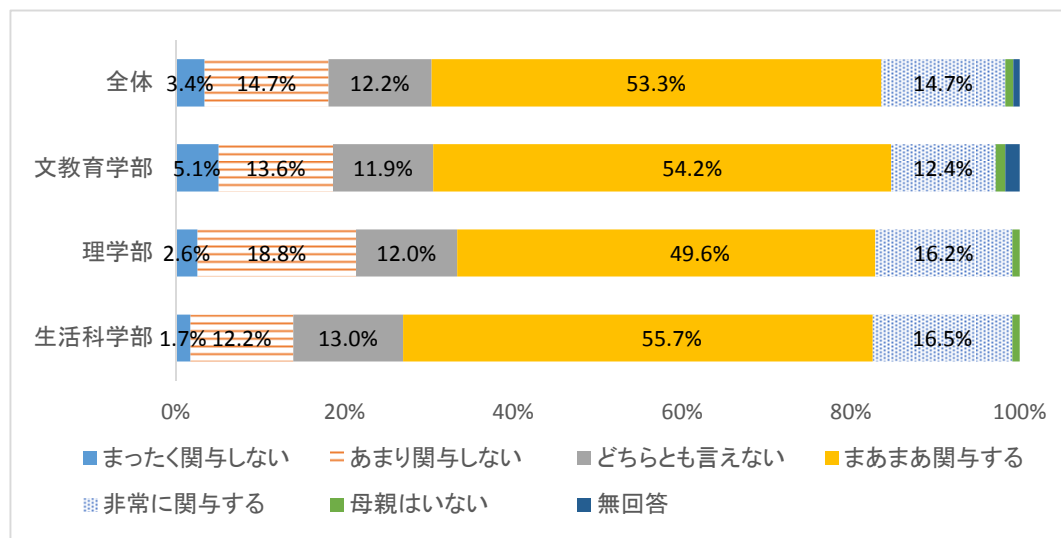
就職や将来に関する親の関与について5件法で尋ねた。図表5-7に父親の関与についての結果を、図表5-8に母親の関与についての結果を示す。

平成27年度新入生は、就職や将来のことにに関して、全体の48.2%に父親の関与があり（「非常に関与する」＋「まあまあ関与する」に回答）、全体の68.0%に母親の関与がある。これらの傾向は、平成26年度新入生でも同様に示されており（お茶の水女子大学2014,p33）、大学卒業後の進路に対する支援を行う際には、保護者の存在も視野に入れ、保護者とともに支援にあたること有益な支援につながると思われる。

学部別では、平成26年度新入生では、生活科学部で父親の関与の程度が高いことが示されたが、（お茶の水女子大学2014,p33）、今年度は学部間での目立った差は見られない。



図表 5-7 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-8 就職や将来のことに関する母親の関与